

I 事業概況

新型コロナウイルス感染症の発生から2年目となった2021年度は、県の要請により9月から1病棟（38床）をコロナ専用病棟とし、7対1病棟は508床で入院患者を受け入れましたが、Vision経営とプロジェクト活動に基づく事業計画を着実に推進した結果、前年度を上回る業績を残すことができました。当年度事業計画に対する主な実績は下記のとおりです。

1. 診療報酬改定・介護報酬改定への対応について

- (1) 紹介患者数及び逆紹介患者数は前年度の実績を上回り、新規入院患者数も増加しました。
- (2) 電子カルテ上に仮想ベッドを増床して入院オーダー処理を円滑に進めるとともに、入院支援センターの介入対象疾患を拡大して対象患者数を増やしました。また、関連事業所間でWeb会議を随時開催し、多職種によるスムーズな退院支援を行いました。
- (3) 医師への周知が浸透し、周術期等口腔機能管理加算の算定対象患者が増加しました。
- (4) PCR検査や発熱外来患者の増加により、院内トリアージ実施料や選定療養費の算定が増加しました。
- (5) 居宅介護支援事業所の分割により新たな施設基準が算定可能となりました。また、前年度に新築移転したデイサービスセンターをはじめ、各事業所の稼働が順調に推移しました。

2. 竹田リハビリテーション病院の建設について

設計担当者を交えた新病院検討会議を開催し、必要とされる機能・配置などを中心に協議しました。また、新病院の構想において参考となるような病院を選定して、小康状態での見学を予定しましたが、次年度に延期することとしました。今後、基本設計と実施設計を進めます。

3. 働き方改革について

4月に医局において長時間労働削減に向けて取り組みを開始するキックオフ宣言を行い、C・M部門が医師の移管可能業務についてプロトコルを作成しました。医師労働時間短縮計画については、福島県医療勤務環境改善支援センターのサポートを受けながら、計画策定を行っています。

6月からは3病棟において看護師二交代勤務制の運用を開始し、3月までに19病棟まで拡大しましたが、今後は全病棟で導入予定です。また、3月からは看護師夜勤専従者を導入し、看護職員の夜勤負担軽減や多様な働き方によるワークライフバランスを推進しました。

イントラネット・電子カルテ掲示板・LINE WORKSなどで情報共有し、業務の効率化も進めました。

4. 人材確保について

常勤医は整形外科や小児科などで増え、臨床研修医も定員12名全員の採用となったほか、看護職及びコメディカル職についても増員となりました。

ベトナムからの第1期技能実習生2名は介護技能実習評価試験に合格し、夜勤をこなすまでに成長しました。第2期生7名については、コロナによる入国規制の影響で当年度中の受け入れには至りませんでした。2022年5月に当市に到着し、約1ヵ月間の研修後、病棟に配置する予定です。

5. デジタル化の推進について

4月に「情報システム課」を発展的に改組して、業務のデジタル化を一層推進するために「DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進部」を設置しました。ホームページの内容を更新し、患者・地域への情報発信の頻度を高めるとともに、WEBによる人材確保施策に力を入れました。また、顔認証入退室管理システムの導入に着手するとともに、業務のペーパーレス化や病棟ナースコールのスマートフォン連携に取り組みました。

6. 施設の整備について

新託児所が8月に開所し、旧託児所も年度末までに解体が終了しました。跡地では、新年度の4月から立体駐車場の建設に着手しています。

7. その他

患者が安心して医療を受けられ、職員が働き易く、地域に信頼される病院づくりに資するため、8月には職員やりがい度調査、10月には患者満足度調査を実施しました。今後は日本医療機能評価機構による活用支援プログラムのサポートを受けながら、医療の質改善に繋げていくこととします。

以上より、医業収益は前年度比1,749百万円（7.9%）増加して23,890百万円、医業費用は359百万円（1.5%）増加して23,634百万円となり、当期純利益は1,573百万円を計上して、6期連続の黒字決算となりました。